

教育DXレポート

コアネット私学教育フォーラム2023 教育におけるChatGPTの利用

今回から2023年8月23日に開催された「コアネット私学教育フォーラム2023」で実施された講座の中から、「教育データ活用」をテーマとした内容を抜粋してお届けいたします。今号は東京大学 大学院工学系研究科准教授の吉田壘先生にご登壇いただいた講座「教育におけるChatGPTの利用」についてです。

ChatGPTが 教育に与える影響

ChatGPTをはじめとする生成AIが教育に与える影響は3つ考えられます。1つ目が授業レベルの評価を揺るがすというものです。評価の中でも選択回答式問題や記述式問題といった単純かつ筆記の課題に対してChatGPTは影響を与えると考えられます。このため、ChatGPTに対応できる評価方法の策定が肝要となるでしょう。学習目的、授業内容の再検討も合わせて行う必要が出てきます。現時点でも、ChatGPTを使わせない方法にする、ChatGPTを積極的に使う、授業内の学習活動と形成的評価を組み合わせるなどの方法が考えられます。

2つ目はChatGPTは学習者の学習プロセスを支援し得るというものです。AIへの指示であるプロンプトを工夫することで、難しい概念を身近な例で説明してもらう、苦手な英単語を組み込んだ物語を作ってもらう、自分専用の課題を作ってもらうなど、個別最適な教材を用意することも期待できます。一方で事実に基づかない情報をAIがさも正当なものであるように生成するHallucination（幻覚）と呼ばれる現象もあり、それを踏まえて事実確認を行いながら使用するという利用方法が必要になるでしょう。

3つ目が教員の授業作りを支援し得るというものです。シラバス作成、課題作成、授業設計、ワーク設計、選択問題、自由記述問題作成など幅広い活用が考えられます。Hallucinationの問題は同様に課題となりますが、上手く活用していくことで教員にとっても非常に有用なものになると考えられます。

ChatGPTの活用 留意すべきポイント

ChatGPTを利用する上で押さえておく必要があるのは、教員や生徒がメインとなるpilot（操縦士）として利用し、生成AIはあくまでも補助してくれるcopilot（副操縦士）であるということです。最終的な確認や判断は自分に委ねられており、どのように使うのかの判断は非常に重要になります。

また、プロンプト次第で出力される結果は大きく変わります。プロンプトを工夫することで臨む形の出力ができる一方、期待しない結果になることも十分あり得ます。プロンプトは知見が深まってきているので、公開されているものを参照していくことも重要です。

実際に利用していく中ではHallucinationを常に考慮していく必要があります。理路整然とした文章の中にデタラメが入ることもあり、それをそのまま鵜呑みにするのは非常に危険です。専門知識を持つ、1次情報にあたる、情報の信頼性を検討するなどのことが重要になります。

このような点を踏まえつつ、積極的にまず利用することで生成AIへの理解を深めていくべきでしょう。

ICTオンライン
セミナー

私学 ICT 導入・活用のネクストステップ

無料

「学び」と「学校経営」の質を高める教育DXとは ～意味のあるICT活用を行うための3つのポイント～

Online
Seminar

9/21木

Online

16:30~17:30

- | | | |
|------|---|-----------------------|
| 講師 | 岡田 育也 | コアネット教育総合研究所新教育推進室副室長 |
| 対象 | 管理職の先生方、ICT担当の教職員の方 事務職員の方など | |
| 費用 | 無料 | |
| 受講方法 | オンライン (Zoom)
お申し込みいただいた皆様に視聴用URLをお送りします。 | |

申込はこちら



ICT支援員・活用アドバイザー・ICT活用教育支援員

コアネット教育総合研究所では、長年蓄積したノウハウを携え、ICT環境整備や授業でのICT活用など教育ICTに関するあらゆる場面で適切なサポートやアドバイスを請け負っています。貴校のICT導入・活用の状況に応じてご支援内容をご提案いたします。



お問い合わせはこちら

住所 〒224-0003
横浜市都筑区中川中央1-26-10

TEL 045-914-3005
(担当：岡田、川田、坂本)

E-mail info@core-net.net

ICT活用に役立つ情報公開中

URL www.core-net.net/ict/

教育と学校経営専門のシンクタンク&コンサルティング企業



コアネット教育総合研究所

